



1995. 12. 20
第99号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
新 園 正 明
編集協力
沼田会
西郷校長
北会津
地小・中

無財の七施

会津教育事務所業務次長

山内 徳次



昭和六十年代、会津若松市の教頭会で、会津若松市教育委員会の諮問を受け、「かつて行われていた会津の教育の中から、現在の教育に生かせるものはないか」という視点からまとめたものを読ませてもらった。

藩政時代のものなので現代に合致しない点もあるが、言葉を読み替えば、「人の道」すなわち現在の生徒指導にも利用できる内容がかなり見受けられる。その中から一つを紹介してみたい。

会津は、文化財が数多く存在することでもわかるように、大変仏教文化が栄えたといわれている。藩政時代、肝煎が年一度、正月に領民として守るべき徳と一緒に、人間の生き方として仏教の言葉を書き記し、領民に話をしてきたと

伊藤豊松先生の講話の記録に載っている。仏教に関する内容は省略するとして、その中に「無財の七施」という言葉がある。仏教の教えなどまるで知らない、お金も物もない、しかし人間として生まれる以上、何かできることはないかという考えで行う施しの意である。

- 一、捨身…親切。人に対して親切にしていく。面倒を見る。
- 二、心慮…心に思う。他人の喜び、悲しみをともに味わう。
- 三、和顔…おだやかな顔。温かい顔で話し合う。
- 四、慈眼…いづくしみのある眼。相手に対して温かくその人を認め、接する眼。
- 五、愛語…敬愛。相手を欺かないで大事にする。

六、房舎…平静さ。相手の人の心を安定させ、ゆとりを持たせてやる。

七、床坐…譲り合う気持ち。どこまでも我を通さない。自分さえよければよいということをしなない。

以上が無財の七施である。肝煎から聞いた領民(親)は、きっと各家庭に持ち帰り、自分の子弟に伝達したものと思われる。またチャンスをとらえて、他の子どもたちへも指導したであろうことは想像できる。これらの内容は、現在我々が生きる一つの理想としても十分活用できる内容ではないだろうか。

今、私たちが指導に苦慮しているいじめ問題を考えるとき、また、新聞等に報道されている心ない事件を読むとき、この七施に表されているような心の教育、とりわけ「豊かな感性を育む教育」を実践していく必要性を痛感する。今後の教育の一つの指針として藩政時代の教育理念もまた謙虚に受け止め、「会津の心」に触れるのも意義深いものと思われる。

各学校においては、新しい学力観に立った、基礎学力の向上を図ることが課題である。

新しい学力観に立つ学力は、興味、関心、意欲、態度などの「学ぼうとする力」、思考力、判断力、表現力などの「学ぶ力」、学習の成果として身に付ける知識・理解、技能などの「学んで得た力」の三つの力としてとらえられる。

これからは、これら三つの力を総合的に高めることを重視して学習指導を進めることが大切である。

その中で基礎学力とは、「児童生徒が獲得した基礎的・基本的な知識・理解や技能であり、それらをその後の学習の中で活用し得る力」ととらえて、学習指導の充実に取り組むことが肝要である。

基礎学力の向上を図るためには、自校の実態に基づく、基礎学力向上のための自校プランを作成する必要がある。

県教育委員会発行の「基礎学力向上プラン」を十分参考にするともに、以下のポイントを重視し作成していただきたい。

一、基礎学力について共通理解を図り、自校プラン作成の計画を立てる。

二、自校の児童生徒の基礎学力について実現の状況を把握し、学校課題を明らかにする。

① 一人一人及び学校全体に

基礎学力向上のために

② 多様な観点や方法をもち、授業中の観察、本時・単元末テスト、学力テスト等の評価の結果を個人カルテ、補助簿等に累積し、総合的・継続的に把握する。

三、基礎学力の定着や向上のために、年間指導計画の見直しを図る。

① 今年度中に修正して取りかかることができ、毎時間意図的に取り組む。

② 来年度の教育課程の編成に生かす事項を明らかにする。

四、基礎学力定着のための授業改善の視点を明らかにし、日常的に取り組む。

① 本時の目標を焦点化し、めあてを吟味する。

② 指導過程に指導事項を位置付けるとともに、多様な学習活動を工夫する。

③ 知識・理解、技能の定着を図る手立てを位置付ける。

④ まとめにおいて、本時の目標の実現の状況を把握する。

五、単元全体を通して個に応じた補充指導活動を継続的に工夫するとともに、関連する次の単元(題材)の指導に生かす工夫をする。

「生徒がコンピュータを用いて 主体的に学ぶ授業の創造」

湯川村立湯川中学校

特色のある学校紹介

本校は、平成六年度からの二年間にわたり、文部省より機器利用の研究指定を受け、標記の主題のもと、「個を生かすコンピュータの活用」を副主題に掲げ、研究に取り組んでいる。

一、研究内容

全教科でコンピュータを活用する授業を実践し、「個のよさを伸ばすツール(道具)」としてのコンピュータの効果的な活用方法を明らかにすることを基本方針におき、内容を次

- のようにおさえた。
- ① 学習課題設定のさせ方の工夫
 - ② 生徒一人一人のよさを生かすコンピュータ活用の工夫
 - ③ コンピュータリテラシーの育成を図る会津大学との連携のあり方の工夫
- 二、研究の成果
- ① 自己課題の設定を促し、個のよさを生かす指導に心がけたことが「わかる授業」につながった。
 - ② コンピュータの活用によって多様な学習形態の授業ができやすくなり、生徒の生き生きとした活動場面が増えた。



まだまだ、会津大学との連携のあり方など課題は多いが、一人一人の教師がアイデアを出し合いながら研究を進めている。

現在、生徒指導上の最大の課題は、「いじめ問題」と「登校拒否問題」である。

急激な社会の変化の中で、生きる力と方向を見失いがちな子どもたちに、痛ましい犠牲者を出さないためにも、生涯において深刻な心の傷を負うことがないようにするためにも、各学校が担わなければならない使命は大きい。

そこで、当面する課題に早急に対応するために、以下のことについて実践をお願いしたい。

一、いじめ対策委員会及び登校拒否対策委員会を機能させ、

生徒指導の 充実のために

- 二、事実をすぐに校長(教頭)に報告する体制を整えておく。
- 三、緊急時に全教職員がどのような行動するかについてマニュアル化しておく。
- 四、いじめや登校拒否に対する基本的な認識を確認し、児童生徒の心の叫びをとらえる教師の目を鋭くする。
- 五、問題傾向をもつ児童生徒に対

しては、全教職員が同一歩調できめ細かな対応をする。

六、生徒理解を徹底することにより、崩壊傾向にある家庭の児童生徒を掌握し、学校が「心の居場所」となるように心掛ける。

七、児童生徒や保護者への対応については、担任まかせにしない。複数で行うようにする。

八、PTAや地域の諸機関との連携を深め、情報を多方面から収集する。

九、学校だけで解決しようとしすぎないで、早めに関係機関と連携をとる。

わたしの作品

「クリーニング」

詩 高郷村立高郷第二小学校 三年 薄 隼

お父さんの服が

クリーニングから返ってきた。

ぼくは、さわってみた。

スルツと

すべりそうになった。

ぼくも、

こんな服が着たいなあ。

お母さんに

「ぼくのもクリーニングに出して。」と言った。

「今度はね。」

お母さんは、

わらって答えた。

早く着たいなあ。

私のアルバムより



アラゲヒョウタンボク

ブナやナラ等の落葉広葉樹林に生えるスイカズラ科の低木で、別名オオバヒョウタンボク。養、淡黄色の花を鈴状につける。県内では磐梯山や安達太良山、尾瀬などでしか自生が確認されていない。(提供 会津若松市立第五中学校 教諭 一 藤重和)

版画



「明日を信じて」

会津本郷町立本郷中学校 二年 星 真利子

論理的な思考力を伸ばすための
操作活動の工夫 (小五年算数)

三島町立三島小学校
教諭 山岸 実

「合同な三角形の作図」の指導
において、竹ひごと厚紙で作った
教具(二つの辺と角が色分けして
ある)を使用した操作活
動を行い、作図に必要な
条件を発見的にとらえさ
せようとの意図から、次
のような学習活動を計画
した。

- 一、合同な三角形を作図
するために、全員で三
角形の辺の長さや角の
大きさを測る。
- 二、合同な三角形を作図
するには、最低何か所
の辺や角を測ればよいかを考え
る。
- 三、教具を使用した操作活動によ
って、合同な三角形を作図する。
- 四、合同な三角形の作図のしかた

「子どもは親や教師のいうとお
りにはならないが、するとおりに
はなる。」とよく言われている。「人
間は雰囲気を感じて育っている。」
と言われるものと思われる。
言うまでもないが、子ど
もたちの生きる場としてふ
さわしい雰囲気を作り出す
ことなくして、人間性豊か
な子どもを育てることはで
きまい。中国の古典に「故
に裁うる者は之を培ひ、傾く者は
之を覆す。」とある。根を正しく
植えつけることができれば樹木は
立派に生育し、根を傾けたまま

私の実践

を類別し、必要な条件について
話し合う。
五、他の三角形を作図し、一般化
を図る。

子どもたちの発表の中に、「辺
が動かなくなる」などのことが
聞かれ、図形が「決まる」ことを
実感的に気付かせることができた。

また、作図に必要な条件
を話し合うことによって、論
理的な思考の基礎を培うこ
とができたと考える。この
学習成果は、「四角形の作図」
にも生かされ、子どもたち
の活発な活動が見られた。



見祿の大石

猪苗代町教育委員会

明治二十一年、磐梯山が爆発し
たとき、泥流とともに流されてき
た巨岩で、火山活動のもの凄さを
物語るものである。

このときの磐梯山の火山活動
は、水蒸気爆発による山体崩壊
を伴うもので、以後の世界の火
山学の教科書に「磐梯山式」と
いう活動様式を登場せしめた珍
しいものであったという。

山体崩壊時の岩石と土砂は、
その総量十二億立方メートル、
流下速度毎時七十二キロメー
ルの泥流となって一気に山腹を
流れ落ち、谷や川、集落を埋め
尽くした。この時の人的被害は、
死者四百七十七名を数える大惨事
となった。

この泥流に乗って爆発中心より
南東五キロメートルの見祿地区ま
で運ばれてきたのが「見祿の大石」

～ 地域に学ぶ ～

である。石の大きさは、幅九メー
トル、高さ三メートルであるが、
推定四百トンという重さのため年
年沈下し、地表露出部分の高さは
運ばれた当時の半分ほどになり、
現在、民家の庭先に鎮座している。
火山泥流が予想外の遠距離まで
巨岩を運び得ることを示す学
術上貴重な資料で、昭和十六
年に国の天然記念物に指定さ
れている。



社教の窓から

「福島県ボランティア・
リーダー養成講座」より

平成七年七月、十六日、二十八
日の二泊三日で、会津少年自然の
家を会場に「ボランティア・リー
ダー養成講座」を開催した。
これは、ボランティア活動の実
践者やボランティア活動に関心
のある県民を対象に、ボランティア・
リーダーとして必要な知識や技術
に関する学習機会を提供し、それ

それぞれの地域においてボランティア
活動の推進に寄与する人材の養成
を図ることが目的であった。

主な内容は次のとおりである。
講演・講義をおして基本的な
ボランティア活動の知識を学んだ
り、「手話」・「点字」・「環境
保全」の諸活動を体験した。

会津坂下町の「ボランティア養
成の実験」や熱塩加納村の「生涯
学習づくり」におけるボランティ
ア活動の実験の事例発表をもと
にボランティア活動のあり方につ
いて研究協議を行った。

実技として、「レクリエーショ
ンの実際」を学んだり、日本赤十
字福島支部救急法指導員から「救
急法」について実習時のボランティ
ア救急活動のあり方と具体的な救
急法を二人組になって実習した。
また、今年一月の阪神大震災のボ
ランティアについてなども聞くこ
とができた。

実地研修として、会津坂下町特
別養護老人ホーム「寿楽荘」の盆
踊りに参加して、福祉ボランティ
アの実際を体験した。

四十八名の参加者があり、ボラ
ンティアの意識が高まり、充実し
た内容の講座となった。特に「点
字・手話」の講座には、これまで
なら、ボランティアを受け入れる
立場にあった障害者を講師に迎え
実施したため、講師の真剣な講座
の取り組みとともに、参加者はそ
の技術を生懸命取得しようとする
姿が見られた。

今回の講座は福祉ボランティア
中心の内容であったが、今後は、
環境保護活動、国際交流、地域づ
くり等を支える多様な「生涯学習
ボランティア」についても視野に
いれていきたい。

育てるとは

河東町教育委員会教育長
加藤 孝 雄

う。教育の根とは何か。眼を見聞
いてしかと見定めなければならな
いことである。
この世にかけがえのない子ども

しかも土で固めることを怠れば枯
れるという意で、誰しも承知して
いることである。しかし、植え替
えて枯らすことの多いのも事実で、
教育においても、また然りである

孝 雄

「教育は人にあり」と言わ
れるとおり、子どもの前
に立つ人の心と、その生
きざまが教育の内容や
方法や技術以前の基本的な問題と
してとらえられなければ、諸問題
の解決にはなっていないのでは
なからうか。

私の抱負

ゆとりを持って

高多方市立第二小学校
教諭 白岩 静



私が「先生」と呼ばれるようになって八か月が過ぎた。最近になって改めて、

自分はこのクラスの先生なんだと、実感するとともに、子どもにとっても、どれほど教師の存在が大きいかが見えてきたように思う。

例えば、私自身にゆとりがあるかないかによって、子どもの接し方が変わり、それによって教室の雰囲気まで変化してくる。ゆとりを持って子どもたちに接すると、子ども一人一人の表情もやわらいでくるのが分かるようになった。

これから先、「ゆとり」を持つことを忘れずに、子どもと自分の心を重ねる努力を続けて行きたい。

新たな使命と責任

柳津町立西山中学校
教頭 深谷哲三



「ガチッ」正面玄関のドアの鍵の開閉の音がする。今年四月より、朝

夕の学校の鍵の開閉が私の仕事の一つになった。今までも鍵の開閉をしたことはあったが、この音は私にとって学校を守っていくという大きな使命と責任を感じさせる。

この七か月間、素直で元気の良い四十四人の生徒と出会い、一人何役もこなす活動の姿に接し、何度も新鮮な感動を覚えた。これは学校と地域が一体となり実践している成果だと思ふ。

今後さらに、校長先生のご指導のもと、生徒一人一人の個性を生かし、地域に根ざした創意ある学校教育を目指していきたい。

和を大切に

昭和村立朝和小学校
校長 夏井敬子



生き生きとした活動にみちた学校づくりの取り組みの中で、まず教師集団の

和を大切にしていこうことをあげた。それは、助け合い、励まし合うことによって互いに高め合うことができるからである。

子どもではないが、職場が本当に楽しければ、やる気も、意欲もわいてくる。結果的にはそのことが子どもにも跳ね返ってくる。子どもも親も指導力のある良い教師に習いたい、担任を持ってもらいたいと願っている。

それらの願いに応えられる教師になりたいし、なってほしいと願わずにはいられない。和を中核としてその実現に努力したい。

随想

私は、日本に住んで二年半になります。私は、いろいろな先生の教え方を見て、とても勉強になりました。私が出会った素晴らしい先生方は専門の知識に優れ、生徒たちに勉強の興味を持たせ、自分の専門をもっと研究したいという意欲のある方々です。

日本では、教科別に会議や研究会がたくさんあって、先生方に常に勉強の機会が与えられているのは素晴らしいと思います。私が特に、日本での英語教育に感じ

私が日本の英語教育について感じたこと

山都町・高郷村教育委員会
英語指導助手 ルイーズ・シャールラン

Louise Charland



そういうわけで、英語の先生が外国へ行く機会が与えられたら

語教育を見た時、とても役に立つと思います。例えば、ドイツ、デンマーク、カナダのケベック州(私の出身地)です。それらの国々には英語を流暢に話す人々がたくさんいます。そこには、

総務課より

「年末調整について」

一、還付・調整の時期
十一月中旬に提出された各種の申告書に基づいて一人一人が納入すべき年税額が確定されます。源泉徴収されている額の合計との過不足額は、十二月給与で精算されます。

二、変更や訂正がある場合

扶養控除異動申告書を提出してから後に子どもが生まれた場合や配偶者特別控除にかかる配偶者の所得額が申告書に記載した見込み額と違っていた場合、申告した保険料の額が違っていた場合等、すでに提出された申告書に変更又は訂正が生じることがあっても、一月の給与の際に、年末調整の再調整を行うことができます。

変更や訂正があった場合は、速やかに各所属の事務担当者までご相談ください。

教育事務所 短 信

指導課より

- ① 燃物を撤去するとともに、確実な監視・施設に努める。
- ② 生徒指導等に起因する学校火災事故防止に努める。
- ③ 冬用タイヤの整備を万全にするなど、スリップ事故の防止に努める。
- ④ 自己の運転技能や自動車の性能を過信する事なく、ゆとりをもって安全運転に努める。

管理課より

降雪、積雪の時期を迎え、次の点について特に努力をいただき、学校事故防止に万全を期するようお願いいたします。

- 一、学校火災事故の防止
 - ① 教職員、児童・生徒ともに、防火意識の高揚に努める。
 - ② 暖房器具の正しい取り扱いと燃料の適正な保管に努める。
 - ③ 放火事故等を未然に防止するため、校舎内外の不要な可燃物を撤去するとともに、確実な監視・施設に努める。

- ① 個性豊かな人間の育成の立場から、教育目標の見直しは？
- ② 基礎学力向上の視点から、年間指導計画・内容・方法の見直しは？
- ③ 学校の課題解決に向けて、教育活動の重点化や精選化は？
- ④ 学校行事の精選や各教科等への時数組み入れの問題点は？
- ⑤ 実質的な時数の確保は？
- ⑥ 選択履修の幅の拡大は？
- ⑦ 情報教育、環境教育等の新しい教育への対応は？